

さくまち Days 佐倉のまちなかを市民全体でみんなの空間にするための社会実験

主催:さくまち Days 実行委員会

11月6日(土)・7日(日) 10時~15時 大手門跡広場(佐倉中学校向かい)

歴史展示・マルシェ・ワクワク創作ゾーン・冒険あそび場・パークヨガ・BOOK×PARK 他



11月10日(水) 10時~15時 佐倉新町通り沿い/金毘羅縁日ふれあい市同時開催

新町通り佐倉市立美術館前からおはやし館前まで車両の一方通行にして歩行者はゆつくりと歩いたり休憩したりできるようにします。ぜひ感染対策は万全にしてお出で下さい!

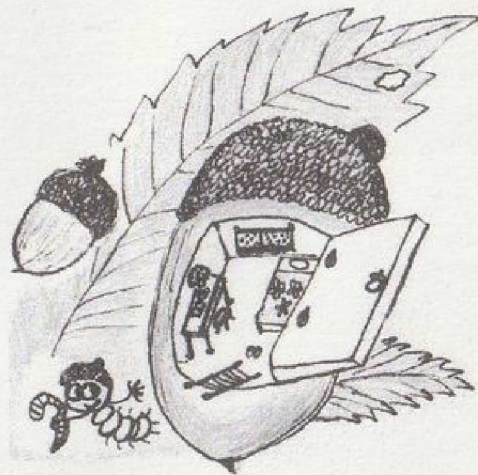
ドラゴンへの階段 第31回

(連載エッセイ)「心のJ-Pop」哀愁波止場(美空ひばり)

皆さん、こんにちは!秋深まる夜、先ほど妻との散歩から帰宅しました。今年は折々の歳時記の一つであるキンモクセイが気温の激変に動揺して先月中旬に早くも咲いてしまい、一度散った後に今再び秋を認識して花開き、かぐわしき香りを大気に振り撒いています。都会ではちらほらと桜の花の狂い咲きも見られるとか。そんな徒然なる季節の話題を愛おしく感じているこの頃です。

さて、前回のお話して少し紹介させていただきました私の新しい音楽プロジェクト、「日本の歌をサクッとで思い切りジャズする!」そんなイベントの第一回はおかげ様をもちまして無事に終了いたしました。ご来場の皆様またインターネット配信などでご覧くださった皆様のお力添えをいただきまして、実り多く更なるチャレンジへの意欲も高まる良い機会となり、こうして感謝の気持ちでいっぱいですが、ありがとうございます。また次回(12/1予定)に向け、今から準備を始め、栄養たっぷりの美味しい野菜をつくるように丁寧に音楽の仕込みをしております。

それとは別に、私の歌の練習の成果も少しずつ積み上がってきたのか、神様が小さな実りをくださいました。今まで出せなかった高さの音が、コンスタントに唄えるようになってきたのです。今回ご紹介させていただく演歌の名曲、美空ひばりさんの唄う「哀愁波止場」は心に沁みる演歌の名曲です。この歳になつたせいもあるのか、やっぱりジャズという海外からやってきた音楽と違い、演歌って私たちの生活の延長というか、理屈抜きに愛でてしまうものだなあ、って心から感じます。そんな名曲ですが、他方で歌手としての彼女にとって大きな転換点になつた曲としても有名です。



素晴らしい「地声(ちこえ)」をお持ちであった故か、おそれなく声帯に負担がかかる地声での唄い過ぎが高じて喉の不調を抱えてしまったひばりさんに、作曲家の船村徹さんが、あえて裏声をフルに歌わせるこの曲を送った、とか。私の場合は、もちろんひばりさんとは比べるものではないのですが(笑)、やはり地声が強い声質を生来持っていましたので、声が悪く言うとうまく、なかなか軽やかに高く舞いあがる事ができない声質でした。ボイストレーニングのレッスンを受け裏声を鍛えることを初めたのが約2年前。その課題曲としてずっと練習し続けてきた「哀愁波止場」ですが、男性である私がこの歌を表情豊かに、そしてひばりさんと同じキーで歌うためには、普通の裏声のもう一つ上の「声区」である、「フラジオレット」と言われる高さの声を安定して歌うことが求められます。それがようやく安定して出始めたこの頃、あ、嬉しさのあまり自慢と訳の分からない専門用語を使ってごめんなさい(汗)。とにかく、あきらめないでコツコツやっていたら、いつか成果が出る、ということでしょう。

でも、この実りを自分で味わっているだけでなく、皆さんにも感じていただくためには、これからもまだまだ、地道な努力を怠らずに続けていく必要があります。これからもサクセス、歌、他にもいろいろですが、自分の夢を叶えるための心強い味方達とますます仲良くやっつけていくぞ!とやる気を高めています。やはり好きな事は、やらなきゃもったいない!って思います。

私の唄う「哀愁波止場」を動画サイト「YouTube」にて視聴いただけます。このQRコードを読み取るか、YouTubeにて「佐藤洋祐 ドラゴンへの階段 episode3 哀愁波止場」と検索して見つけていただけます。私が動画を載せている「フォーカスチバプロジェクト」は、千葉県の有志連による地域おこしを目的とした動画チャンネルです。



挿絵 TAKAKO

佐藤 洋祐(サトウ ヨウスケ) ジャズミュージシャン。サクセス美者としてグラミー賞を2度受賞。2015年末より佐倉市在住。2019年よりシンガーとしても活動を開始。